

解雇撤回＝1047名闘争を投げ捨てた 「4者・4団体」路線は敗北の道だ

国労5・27臨大闘争弾圧被告団

団長・富田益行（国労近畿地本・兵庫保線分会）

現在、国労本部を加えた「4者・4団体での政治解決」が、国鉄1047名闘争の唯一の道であるかのような宣伝が、鉄建公団訴訟の原告団の一部からもされています。

私たちは、逮捕され長期勾留されても歯を食いしばって闘ってきました。何のためか。それは一点、1047名解雇撤回・国鉄闘争勝利のためです。その立場から、「4者・4団体」の道が「バラに敷き詰められた地獄への道」であると言わざるをえません。ここに声明を出し、特に4党合意に反対して鉄建公団訴訟に立った闘争団員に訴えます。

★「解雇撤回」の原則をかけ1年3ヶ月の勾留と5年の裁判貫く

私たち「国労5・27臨大闘争弾圧被告団」（闘争団2名、組合員5名、支援者1名）は、02年10月の逮捕と、1年3ヶ月の長期勾留を打ち破り、裁判闘争を4年9ヶ月（82回廷）にわたり闘い抜いています。裁判は、正念場の被告人質問の過程で、論告・弁論・判決へと進みます。有罪判決が出されると、JRの解雇攻撃との対決となります。

私たちは02年5・27臨大で、国労本部派に対して、「3与党声明粉碎・奴隷の道を拒否せよ」のビラを持ち「闘争団を処分するな」と訴え、ビラまき・説得活動を行いました。本部派は、ビラまきを3列縦隊で突破し、「混乱」を起こし、その様子を撮影したビデオを警察に渡し、弾圧を要請しました。これが引き金で弾圧が強行されました。元委員長の酒田、前書記長の吉田、元本部執行委員の鈴木ら幹部役員が警視庁公安部と結託し、組合員を権力に売り渡すという、前代未聞の暴挙が強行されたのです。

国労本部は弾圧と同時に、私たちの行動を「大会破壊の暴力」と、白を黒と言いくるめる声明（11月11日）を出し、検察側に立ち続けています。検察は、この声明を唯一の頼みに、私たちを有罪にしようとしています。私たちは本部に、「声明の撤回と謝罪」を要求（05年2・16など）し続けていますが、無視されています。この一点で、国労本部は労働組合を名乗る資格はありません。本部と私たちの間に妥協はありません。

★「4者・4団体」路線は、奴隷の道

私たちは裁判も、職場での闘いも、《無罪獲得・1047名闘争勝利・国労再生》を目指して必死で闘い抜いてきました。「解雇撤回と職場闘争は車の両輪」の立場で、反合理化・安全輸送の闘いにも挑戦しています。

4党合意を巡る熾烈な攻防は、まさに人生をかけた闘いでした。7・1臨大での「国労本部は私たちの人生を勝手に決めないで下さい」の心の底からの叫び、統制処分・除名を覚悟しての鉄建公団訴訟の開始、05年9・15判決を契機とした「1047名連絡会」の立ちあげなど、私たちも心を熱くし、勝利の糧としてきました。裁判では、私たちの側に立つ証人として、高橋義則元委員長、酒井直昭鉄建公団訴訟原告団長など、立場を超えたご協力をいた

できました。被告団が今日まで、裁判闘争を闘い抜くことが出来たのは、4党合意に反対し解雇撤回を貫く闘う闘争団の存在と闘いがあったからです。

その立場だからこそ私たちは、国労本部を加えた「4者・4団体による政治解決」路線を、根本から批判せざるを得ません。この間、「4者・4団体」の行動では国労本部が次第にヘゲモニーを取り、1047名連絡会（動労千葉9名を含む）の闘いは陰をひそめています。「解雇撤回・JR復帰」が後景化し、ついには11・30集会では無くなりました。

「解雇撤回」は、20年間変わらないスローガンであり目標です。これを捨ててはなりません。何故か。国鉄分割・民営化で、20万人が職場から追放され、200人が自殺に追い込まれ、1047名が解雇されました。闘い半ばで倒れた仲間の無念さは言うまでもない。この怒りを背負って、20年間の闘いを貫いてきたからです。労働者の正義と希望のよりどころだからです。支援の労働者に応えるには「解雇撤回」を貫く以外にありません。

国労本部は、4党合意の総括を出しましたか。統制処分を謝罪・撤回しましたか。何よりも私たちを「売り渡した」ままではないですか。西日本では尼崎事故弾劾ではなく、労使安全会議に参加し会社防衛に走り、遺族からも「腐敗の極み」と弾劾されています。総合労働協約も締結しました。東日本で強行した、バッジ事件を含めた「包括和解」は、労組法改悪の先取りです。チャレンジャー派は、今年の大会でも「1047名闘争は弊害が出ている」、「国労の名称を変更し、連合体に移行せよ」と言い放っています。

国労本部は、1047名闘争を早く終わらせたい、敗北でいいと考えているのは周知の事実です。国土交通省や鉄運機構との交渉では、佐藤委員長が真っ先に「4党合意でご迷惑をかけた」と謝罪しました。今では、「テーブル作り」をお願いしても、「解雇した当事者として解決に向け動くことは出来ない」と答えています。どこに「解決」があるのでしょうか。本部は政府・資本に屈服し、国労を解体し、敗北の道に丸ごと引き入れようとしています。これは、あまりに明らかです。敵と味方は、厳しく区別しなくてはなりません。

★11・4日比谷集会こそ労働者が生きる道

私たちは、国鉄闘争の重要性が今ほど明らかな時はないと思います。中曽根が敷いた「国労を解体して、新憲法を安置する」路線は、参議院選挙の歴史的敗北に行き着きました。

小泉・安倍は、「日の丸・君が代に反対する教師は首だ」、「一時金を返納しない社会保険庁労働者も首だ。牢屋に行け」、「9条改憲に反対する労働組合は、刑事弾圧で潰すぞ」とやりたい放題の労働者攻撃を続けて来ました。青年労働者は、「生きさせろ！」と叫ばざるを得ません。これらは、人材活用センターや清算事業団で、国労組合員が晒された状態です。これに対し、労働者が巨大な反撃を開始したのです。沖縄でも「日本軍の命令による集団自決」という真実を消し去る攻撃に、島ぐるみの怒りが爆発し、労組を中心に上京闘争が計画されています。国家的不当労働行為を消されてたまるか！で闘えば勝利の道は開けます。福田政権など風前の灯火です。

国鉄闘争の原則を貫いてきたのは動労千葉です。分割民営化にストライキで闘い、解雇撤回を掲げ、JR資本との闘いに勝利しています。11月4日の全国労働者集会は、「国鉄1047名の解雇撤回」を掲げ、全国から結集します。韓国民主労総、アメリカILWUなど全世界から結集します。この集会に参加し、共に勝利に進みましょう。